

経営状況報告書 (第31期)

自 令和2年10月 1日

至 令和3年 9月30日

株式会社ちば南房総
千葉県南房総市富浦町青木123番地1

1. 営業報告書

(1) 概況

当期は、前期同様新型コロナウイルス感染症の影響により、3密(密閉・密室・密接)を避けるため、さまざまな制限(移動制限・飲食制限・イベント制限等)が設定され、県をまたぐ移動制限もあり観光客・観光バスが激減し、依然として厳しい状況が続いている。

営業成績は、2020年10月1日に市内の第三セクター3社で合併し、「富楽里」と「潮風王国」の売上が加わり、2021年4月からは「枇杷倶楽部」と「和田浦WAO！」の指定管理者となったため売上が増え、総売上で719,133千円296,354千円増加し、前期を70.1%上回る結果となった。さらに経費の節減や、雇用調整助成金・家賃支援金等もあり黒字(30,958千円)を計上することができた。

営業売上については、2020年10月1日から始まったGOTOトラベルの「地域共通クーポン」により好調なスタートを切ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により2021年1月8日緊急事態宣言が発令されGOTOトラベルが停止となり、観光客が減少し厳しい状況となったが、「地方創生臨時交付金」を活用し地域経済の活性化及び観光客の増加を目指し、市内の道の駅と連携した「ポイントカード」の導入や、南房総市のECサイト活用市内産品等販売業務「楽天市場南房総市アンテナショップ」で販売を強化したこともあり営業売上が増加する。

観光売上については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前期実績をさらに下回る結果となった。びわ狩りについても2年連続で受入を中止した。受入バス台数は 342台(前期532台 △190台)、受入バス人数は 8,140人 前期26,197人 △18,057人)

新型コロナウイルス感染症による生活スタイルの変化に対応する、環境に配慮した持続可能な地域の活性化を目的に、新たな事業展開を進め、各事業所の連携を強化し、観光客の拡大・産業の活性化・業務の効率化を図り、収益性を高め黒字経営を目指す。

(2) 損益の推移

項 目	第31期(当期)	第30期(前期)	第29期(前々期)
売 上 高	719,133,044 円	422,779,453 円	618,736,801 円
売 上 原 価	285,132,264 円	189,707,331 円	310,492,915 円
売上総利益金額	434,000,780 円	233,072,122 円	308,243,886 円
販売費及び一般管理費	463,940,146 円	301,840,760 円	319,357,948 円
営業損失金額	△ 29,939,366 円	△ 68,768,638 円	△ 11,114,062 円
営業外収益	4,141,995 円	2,103,240 円	1,787,796 円
営業外費用	559,993 円	90,520 円	- 円
経常損失金額	△ 26,357,364 円	△ 66,755,918 円	△ 9,326,266 円
特別利益	107,234,707 円	23,173,157 円	2,812,003 円
特別損失	49,389,109 円	2,154,011 円	5,910,270 円
税引前当期純利益金額	31,488,234 円	△ 45,736,772 円	△ 12,424,533 円
法人税、住民税及び事業税	530,000 円	530,000 円	530,000 円
当期純利益金額	30,958,234 円	△ 46,266,772 円	△ 12,954,533 円

(3) 観光バス誘致状況

項 目	第31期(当期)	第30期(前期)	第29期(前々期)
誘 致 台 数	342 台	532 台	1,659 台
誘 致 人 数	8,140 人	15,560 人	49,295 人

(4) 観光事業誘致状況

項 目	第31期(当期)	第30期(前期)	第29期(前々期)
食 事 幹 旋	578 人	1,372 人	4,723 人
花 関 連	627 人	3,306 人	17,551 人
果 物 関 連	5,671 人	6,398 人	15,443 人
野 菜 関 連	25 人	213 人	1,517 人
体 験 ・ そ の 他	7,778 人	7,825 人	24,238 人
合 計	14,679 人	19,114 人	63,472 人

(5) JR誘致状況

項 目	第31期(当期)	第30期(前期)	第29期(前々期)
誘 致 人 数	87 人	30 人	1,051 人

(6) 南房総市地域(経済)波及効果

項 目	第31期(当期)	第30期(前期)	第29期(前々期)
地 域 波 及 金 額	344,766,249 円	236,263,520 円	306,250,141 円

2 会社概要

(1) 株式の概要

① 株式数	当期発行株式総数	0 株
	発行済株式の総数	1,900 株
	資本金額	9,500 万円
	資本準備金	2,015 万円
	その他資本剰余金	7,600 万円
② 当期末株主数		1 名(南房総市)

(2) 株主総会及び取締役会の開催状況

① 定時株主総会

1) 日時 令和2年11月27日

議案	第1号議案	株式会社ちば南房総第30期(自令和元年10月01日至令和2年09月30日)営業内容報告の件並びに第30期貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書、個別注記表承認に関する件
	第2号議案	株式会社富楽里とみやま第18期(自令和元年10月01日至令和2年09月30日)営業内容報告の件並びに第18期貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書、個別注記表承認に関する件
	第3号議案	株式会社千倉黒潮物産センター第26期(自令和元年10月01日至令和2年09月30日)営業内容報告の件並びに第26期貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書、個別注記表承認に関する件

② 臨時株主総会

1) 日時 令和2年10月7日

議案	第1号議案	役員報酬に関する件
----	-------	-----------

③ 取締役会

1) 日時 令和2年10月7日

議案	第1号議案	取締役会規則の制定について
	第2号議案	代表取締役選定について
	第3号議案	業務体制について
	第4号議案	支配人その他の重要な使用人の選任について
	第5号議案	第31期事業計画及び収支計画について

1) 日時 令和2年11月27日

議案	第1号議案	株式会社ちば南房総決算報告書及び株主資本等変動計算書、個別注記表承認に関する件
	第2号議案	株式会社富楽里とみやま決算報告書及び株主資本等変動計算書、個別注記表承認に関する件
	第3号議案	株式会社千倉黒潮物産センター決算報告書及び株主資本等変動計算書、個別注記表承認に関する件

2) 日時 令和3年2月15日

議案	第1号議案	営業状況に関する件
----	-------	-----------

3) 日時 令和3年5月17日

議案	第1号議案	営業状況に関する件
----	-------	-----------

4) 日時 令和3年8月24日

議案	第1号議案	営業状況に関する件
----	-------	-----------

(3) 取締役及び監査役(令和3年9月30日現在)

- ① 代表取締役社長 石井 裕 (南房総市長)
- ② 代表取締役副社長 加藤 文男 (観光カリスマ 初代駅長)
- ③ 取締役 穂積 昭治 (安房農業協同組合 理事)
- ④ // 角田 明美 (地区代表)
- ⑤ // 渡邊 正昭 (富楽里農産(有) 代表取締役)
- ⑥ // 近藤 周平 (富楽里商販(有) 代表取締役)
- ⑦ // 川崎 吉一 (岩井富浦漁業協同組合 理事)
- ⑧ // 佐藤 光男 (東安房漁業協同組合 組合長)
- ⑨ // 堀江 洋一 (南房総市観光協会 会長)
- ⑩ // 福原 正和 (南房総市 商工観光部長)
- ⑪ // 石井 克仁 (南房総市 観光プロモーション課長)
- ⑫ // 鈴木 賢二 (株式会社ちば南房総 統括部長)
- ⑬ // 宇畑 延輝 (株式会社ちば南房総 外房エリア支配人)
- ⑭ // 池田 文子 (株式会社ちば南房総 内房エリア支配人)
- ⑮ 監査役 福原 孝雄 (南房総市 監査委員)
- ⑯ // 川名 洋充 (地区代表)
- ⑰ // 足達 崇 (富楽里農産有限公司)
- ⑱ // 石井 正利 (東安房漁業協同組合 理事)

(4) 従業員の状況

(令和3年9月30日現在)

区分	正社員	準社員	合計
男子	11人	11人	22人
女子	5人	4人	9人
社員合計	16人	15人	31人

(5) 主な営業所

- ① 本社 千葉県南房総市富浦町青木123番地1 道の駅とみうら枇杷倶楽部
- ② 営業所 千葉県南房総市富浦町大津320番地 道の駅おおつの里花倶楽部
- ③ // 千葉県南房総市川田82番地2 道の駅三芳村鄙の里
- ④ // 千葉県南房総市白子1501番地 道の駅ローズマリー公園
- ⑤ // 千葉県南房総市二部2211番地 道の駅富楽里とみやま
- ⑥ // 千葉県南房総市千倉町千田1051 道の駅ちくろ潮風王国
- ⑦ // 千葉県南房総市和田町仁我浦243 道の駅和田浦WAO!
- ⑧ // 千葉県南房総市大井686番地 千葉県酪農のさと

3 決算報告書

決 算 報 告 書

(第 31 期)

自 令和 2 年 10 月 1 日
至 令和 3 年 9 月 30 日

株 式 会 社 ち ば 南 房 総

南 房 総 市 富 浦 町 青 木 1 2 3 - 1

貸借対照表

株式会社 ちば南房総

令和 3年 9月30日 現在

単位：円

(資 産 の 部)

【流 動 資 産】

現金及び預金	326,690,556
売掛金	1,399,474
信用売掛金	10,329,911
商品	23,069,751
半製品	11,234,327
製品	826,308
原材料	1,402,229
貯蔵品	6,125,654
前払費用	12,047,880
未収入金	12,664,406
立替金	554,045
仮払経費	80,190

流動資産合計

406,424,731

【固 定 資 産】

(有形固定資産)

建物	74,571,882
建物付属設備	10,551,982
構築物	4,126,129
園芸設備	3,235,318
機械装置	7,199,589
車両運搬具	995,648
工具器具備品	2,304,263
リース資産	5,084,640
書画骨董	2,247,000

有形固定資産合計

110,316,451

(無形固定資産)

電話加入権	871,224
ホームページ	648,090

無形固定資産合計

1,519,314

(投資その他の資産)

出資金	80,000
差入保証金	400,000
敷金	1,152,522
保険積立金	6,919,200
預託金	139,314
営業保証金	3,000,000

投資その他の資産合計	11,691,036	
固定資産合計		123,526,801
【繰延資産】		
修理負担金	1,033,571	
繰延資産合計		1,033,571
資産合計		530,985,103
(負債の部)		
【流動負債】		
買掛金	12,080,676	
未払費用	23,922,954	
未払法人税等	530,000	
前受金	66,176,500	
預り金	2,396,843	
仮受金	25,110,621	
流動負債合計		130,217,594
【固定負債】		
長期借入金	40,000,000	
受入保証金	6,586,707	
リース債務	5,296,500	
退職給与引当金	7,205,000	
固定負債合計		59,088,207
負債合計		189,305,801
(純資産の部)		
【株主資本】		
資本金		95,000,000
(資本剰余金)		
資本準備金	20,150,000	
その他資本剰余金	76,000,000	
資本剰余金合計		96,150,000
(利益剰余金)		
利益準備金	600,000	
その他利益剰余金	149,929,302	
繰越利益剰余金	149,929,302	
利益剰余金合計		150,529,302
株主資本合計		341,679,302
純資産合計		341,679,302
負債・純資産合計		530,985,103

損益計算書

株式会社 ちば南房総

自 令和 2年10月 1日

至 令和 3年 9月30日

単位：円

【売 上 高】			
営業売上高		450,680,368	
観光売上高		5,893,724	
業務受託収入		25,820,380	
受託手数料収入		72,565,809	
指定管理収入		164,172,763	719,133,044
【売上原価】			
期首棚卸高		41,263,777	
商品仕入高	276,377,697		
観光仕入高	4,023,405	280,401,102	
期末棚卸高		436,532,615	285,132,264
売上総利益金額			434,000,780

【販売費及び一般管理費】

役員報酬	1,860,000
給料手当	95,975,746
雑給	94,165,525
法定福利費	23,902,368
厚生費	8,228,029
外注費	3,647,737
旅費交通費	506,394
通信費	4,374,908
交際接待費	308,358
会議費	68,573
減価償却費	17,097,979
賃借料	20,987,414
保険料	2,910,427
修繕費	8,442,724
水道光熱費	56,315,624
燃料費	1,289,300
消耗品費	26,200,045
租税公課	19,187,432
荷造運賃	6,624,508
事務費	8,734,403
広告宣伝費	961,068
手数料	4,841,450
諸会費	757,565
施設維持費	24,038,073
繰延資産償却	133,363

業務受託費	16,309,059	
地代家賃	5,345,635	
研究研修費	7,342,129	
雑費	3,384,310	463,940,146
営業損失金額		△29,939,366
【営業外収益】		
受取利息	2,950	
受取配当金	550	
雑収入	4,138,495	4,141,995
【営業外費用】		
支払利息・割引料		559,993
經常損失金額		△26,357,364
【特別利益】		
受取保険金	400,000	
補助金収入	106,834,707	107,234,707
【特別損失】		
固定資産除却損	231,473	
固定資産圧縮損	49,157,636	49,389,109
税引前当期純利益金額		31,488,234
法人税、住民税及び事業税		530,000
当期純利益金額		30,958,234

株主資本等変動計算書

株式会社 ちば南房総

自 令和 2年10月 1日

至 令和 3年 9月30日

単位：円

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	95,000,000	20,150,000	0	20,150,000	600,000	85,541,634	86,141,634	201,291,634
当期変動額								
合併 千倉黒瀬物産センター			46,000,000	46,000,000		2,101,083	2,101,083	48,101,083
合併 富楽里とみやま			30,000,000	30,000,000		31,328,351	31,328,351	61,328,351
当期純利益						30,958,234	30,958,234	30,958,234
当期変動額合計	-	-	76,000,000	76,000,000	-	64,387,668	64,387,668	140,387,668
当期末残高	95,000,000	20,150,000	76,000,000	96,150,000	600,000	149,929,302	150,529,302	341,679,302

株主資本等変動計算書

株式会社 ちば南房総

自 令和 2年10月 1日

至 令和 3年 9月30日

単位：円

	純資産合計
当期首残高	201,291,634
当期変動額	
合併 千倉黒瀬物産センター	48,101,083
合併 富楽里とみやま	61,328,351
当期純利益	30,958,234
当期変動額合計	140,387,668
当期末残高	341,679,302

個別注記表

株式会社 ちば南房総

自 令和 2年10月 1日

至 令和 3年 9月30日

この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

平均法による最終仕入原価法を採用しています。

固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しています。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しています。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

貸借対照表等に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額 422,072,563円

株主資本等変動計算書に関する注記

議案について

令和3年11月29日開催の定時株主総会において、上記の議案は承認可決されております。

4. 監査報告書

株式会社 ちば南房総

自 令和2年10月 1日

至 令和3年 9月30日

上記事業年度に於ける、決算報告書及び株主資本等変動計算書、個別注記表を監査した結果、いずれも適法かつ妥当である事を認めます。

令和3年11月26日

監査役	川名 洋充
監査役	福原 孝雄
監査役	足達 崇
監査役	石井 正利

5. 第32期事業計画(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

(1) 経営目標

経営基盤及び新規事業の創造力の強化と、環境に配慮した持続可能な地域の活性化を目的に、新たな事業展開を進め、観光客の拡大・産業の活性化・業務の効率化を図り、収益性を高め黒字経営を実現する。

(2) 基本方針

- ① 地域・市との連携を強化し、コロナ禍の厳しい社会・経済環境からの早期脱却。
- ② SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みにより、社会や環境に配慮した製品やサービスを選ぶ「エシカル消費」に対応する。
- ③ 道の駅間の連携強化による重点的な取り組みの実施(担い手の育成、誘客システムの拡充、ECサイトの販売強化、ポイントカードの活用等)を図る。
- ④ 施設連携・業務の見直しをし、効率化を図る。

(3) 営業所別事業計画

① 道の駅とみうら枇杷倶楽部

- 1) 営業目標 商品構成及び販売方法の見直し・工夫により、小売・卸・ECサイトの売上の回復を図る。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・お土産需要が減少しているため、地元客・観光客が喜ぶ商品構成に見直しを図る。
 - ・現在売上が好調な「マルシェ」の農産部門を、引き続き強化を図る。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策により、飲食の席数を制限しているため、メニューを見直し客単価の向上を図る。
 - ・月ごとに重点商品を決め、効率良く販売することを目指す。
 - ・飲食は、商品数・価格の見直しにより、売上の向上を図る。

② 道の駅おおつの里花倶楽部

- 1) 営業目標 withコロナ時代に順応した集客と販売戦略を確立し、花倶楽部の持つ技術・素材を活かし、技術の向上と後継者の育成、生産者や関連事業者と連携を強化し、農業経営者として営農に努める。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・情報発信を強化し、生産ロスを減らし、販路拡大に努める。
 - ・新型コロナウイルス対策地方創生臨時交付金を活用し、コロナ禍で需要の高いドライフラワー・観葉植物を市内の農家等と連携し、生産及び販売を図る。
 - ・ふるさと納税を含めたECサイトで、花倶楽部オリジナル商品の強化及び販路拡大を図る。

③ 道の駅三芳村鄙の里

- 1) 営業目標 酪農発祥の地として、本物の乳製品提供を目指す。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・売上UPとコストの削減を両立させる。
 - ・SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みとして、薪ボイラー活用エコツーリズムツアーの実施。

④ 道の駅ローズマリー公園

- 1) 営業目標 ハーブ商品で個性を高め、ワークショップの定期的な開催により売上の増加を図る。また、はなまる市場との連携を強化し、道の駅の魅力を高め、道の駅全体で楽しんでもらう。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・SHOPの販売強化の他、イベント会場としてシアターホールや中庭の貸出業務のPRを外部へ発信し、観光・地域への両方にアプローチを図る。
 - ・地域の方のワークショップや地元ミュージシャンの発表会の場所として提供し、イベント化を強化し、地域貢献・集客拡大につなげる。

⑤ 道の駅富楽里とみやま

- 1) 営業目標 道の駅大規模改修工事実施のため、高速側からのお客様がほぼ見込めず、一般道駐車場も3割程度しか利用できない。仮設店舗での営業となり、売り場面積も約半分のスペースとなるが、テナント及び自社道の駅ネットワークによる連携強化により、創意工夫を図る。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・新規店舗の魅力的な店づくりのため、新商品開発や売れ筋商品の発掘を図る。
 - ・SNSを活用し情報発信を常に行い、集客につなげる。
 - ・テナントとの取り組み
 - 仮設店舗ならではの、集客につながる商品展開をする。
 - ECサイトをフル活用し、売上を伸ばす。
 - 農産物を中心とした各商品の販路の拡大。
 - テイクアウトグルメを充実させ、飲食売り上げの向上を図る。

⑥ 道の駅ちくら潮風王国

- 1) 営業目標 売上増及び事業効率化による事業所(潮風王国)の黒字化の達成を目指す。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・重要な集客ツールである花畑の景観を維持するため、千田花畑再生クラウドファンディング事業を進めていく。
 - ・空テナントは、現在2業者が検討中。希望者がいない場合には自社事業も検討し、空テナントの有効活用を図る。
 - ・出荷者を増やす、販売場所の確保等により、朝市・野菜売場を充実を図る。
 - ・大規模改修に備え、コンセプトの方向性や意見集約を図る。

⑦ 和田浦WAO！

- 1) 営業目標 テナントとの連携を強化し、道の駅の魅力を高める。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底

⑧ 千葉県酪農のさと

- 1) 営業目標 牧場をイメージさせる牧歌的な雰囲気の中で、牛乳を使った商品及びファミリー層向けの商品揃えをし、SNS等で「酪農発祥の地」をアピールし酪農への理解と地域産業の発展と施設の賑わいの創出を図る。
- 2) 重点的な取り組み
 - ・Withコロナ 感染防止に努め来園者及び従業員の安心安全を確保し、新しいライフスタイルの徹底。
 - ・コロナ禍の中来園することが出来ない学習目的の小学校や、遠方のSNSフォロワー向けに、酪農のさとを紹介するビデオ動画(YouTube)を作成。
 - ・Web会議ツールZOOMを利用して、Web視察、見学会を検討。
 - ・SNSを活用し、情報発信を常に行い、集客につなげる。

(4) 道の駅間連携による重点的な取り組み

- 1) ECサイト「南房総アンテナショップ」及び卸を含めた「自社ECサイト」のさらなる販売の強化を図る。
- 2) ポイントカードシステムを活用し、お客様感謝デー、ポイント5倍10倍デー等既存会員の満足度を増やすイベントとともに、新規登録者数の増加を目指す。
- 3) SNSの情報発信の強化と勉強会の開催。
- 4) SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みを理解し、出来ることから始める。
- 5) 今後の団体旅行の回復は不透明なため、個人旅行誘致システムの「南房総MYトラベル」を活用し、観光客の増加を図る。

